
薔薇少女

卯月夜

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

薔薇少女

【Nコード】

N2280B

【作者名】

卯月夜

【あらすじ】

人間を捨てた少女の話です。不思議な話なので深く考えないで読んで頂ければと…

目は風景を
耳は歌を
口は閉ざし
手足動かず

彼女は人形のように

美しい薔薇のように存在する。

「
……」

目に映る世界は彼女にとって意味は無い。ただあるそれだけ。
何も感じず、何も思わず、何もしない。

椅子に座り、窓の外に広がる風景を見詰める。

若草が茂り、地平線まで埋めつくしている。

若草の間から、木々がポツンポツンと佇み、野花は若草に色を与え、自由に咲き、目の前は自然にあふれていた。

「気分はどう？ リリイ」

上等な椅子に座っている少女に声を掛ける。

その声は優しく心地良い。けれど少女は微動だにせず、ただ真っ直ぐどこを見ているのか分からない瞳をのぞかせる。

声を掛けた主は眉をひそめ、悲愴な表情を浮かべ涙を流す。

「リリイ 君は何故魂を捨てたんだい？ どうして心を嫌ったんだい？ 人間を嫌った可愛そうな人間だね。リリイ君は……」

声の主はそう言うのと少女の頬に触れ、一粒の涙を少女の頬に落とした。

少女は微かに動いた。けどそれに気付かなかった。

「さようなら、リリイ。御主人様」

男は涙を流しながら消えていった。

体の端から散々と白い灰が舞い、舞った分だけ体が消えていく。白い灰は窓から外に、広大な自然へと風にのり散る。

「……………」

少女は消え行く男を見ている。
見つめている。

最後までずっと。男がその姿を全て消すまで。ずっとずっと

『あ…………り…………がと…………私の…………』

少女は微かに口を動かす。

少女は一粒の涙を目から頬へ、顎につたりしたり落ちた。
そしてまた少女は人形に戻る。

目は光を

耳は鳥のさえずりを

口は開かず

手足意味無く

心は無い

全てを捨てた少女は薔薇のように存在する。

ただそこに

（後書き）

消えたのは飼い猫か何かです。

（曖昧ですみません）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2280b/>

薔薇少女

2010年10月14日12時29分発行